

Gallery of The Fine Art Laboratory

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶びを申し上げます。

この度、9月4日（水）から9月27日（金）まで、武蔵野美術大学「Gallery of The Fine Art Laboratory」にて、関真奈美「敷地 | Site」展を開催いたします。是非ご高覧いただきたく、ご案内申し上げます。

関真奈美「敷地 | Site」

目の前に設置されているもの、その存在について興味を抱くのは物理的条件のもとに置かれているという点です。物の用途とは関係なく重なり隣りあうには、バランスをとるためのゴムシートや接着剤といったクッションが物と物とのあいだに存在します。

--

目の前「に」設置されているもの、その存在「に」について興味を抱くのは物理的条件「の」もと「に」置かれているという点です。

物「の」用途とは関係なく重なり隣りあうには、バランスをとるため「の」ゴムシート「や」接着剤「と」いったクッションが物「と」物「と」「の」あいだ「に」存在します。

--

自室を狭めている物のほとんどは放っておいただけの状態から、やがて堆積しバランスを保ちながら関係を結びます。さりとして埃という接着剤さえ振りはらえば、いとも簡単に組み換えが可能なのです。

関真奈美

【作家略歴】

関真奈美 / Manami SEKI

1990年 東京都生まれ

2013年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業

【主な展覧会歴】

2012年 「群馬青年ビエンナーレ 2012」群馬県立近代美術館（群馬）

2014年 「陳列の眺め」blanClass, 横浜

2014年 「ルビのダスト」双ギャラリー（東京）

2016年 「ピンク・ジェリー・ビーンズ」TABULAE（東京）

2017年 「(real) time と study tables」space dike（東京）

2017年 「PJB」BankART1929（横浜）

2018年 「ビヨンド・マテリアライジング」多摩美術大学アートテーク（東京）

2019年 「記録係 vol.羽島市勤労青少年ホームを記憶し記録する1日」羽島市勤労青少年ホーム（岐阜）



<受賞歴>

2012年 学生CGコンテスト18 ノミネート（谷口暁彦評価員賞）

2013年 武蔵野美術大学 造形学部卒業制作展 優秀賞

【開催概要】

会期：2019年9月4日（水）～9月27日（金）11：00～17：00 日曜休廊（9月16日・23日の祝日は開廊）

会場：Gallery of The Fine Art Laboratory

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 武蔵野美術大学2号館1階

主催：Gallery of The Fine Art Laboratory（彫刻学科研究室企画 問い合わせ先：042-342-6055）

※9月5日（木）14：40より2号館202にてアーティストトーク、18：00よりオープニングパーティーを行います。

【展覧会によせて】

つまり、単語とは単に「物」を表わす名称に他ならないのであるから、いっそのこと、話さなければならない特定の用事を相手に伝えるのに不可欠な「物」を、身辺に携えてゆくのが逢かに簡便ではないか、(ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」)*1

関真奈美は「言葉」と「身振り」で、私たちばかりか作者自身でさえ誰もが行ったことのない場所に連れて行ってしまふ。それは私たちの慣れ親しんだ現実の世界の中で、いわば迷子になるためのルールを模索しているようにも見える。しかしそれならば、私たちが仮にも迷子として共有する時間とはいったいどのような性格か。

私たちは「言葉」を使って「ものごと」を「他人」に伝えている。しかし表現としてこのように即物的に「言葉」を介在させるリアリズムはいわゆるコンセプチュアルアートとしてしばしば見られる風景であり、たしかに、イメージやものごとを私たちは社会の中で共有することができるだろうか、という根本的な疑問から、モダンアートの歴史の様々な局面で試みられたことかもしれない。

関の表現はそれらの問題とは無関係ではないにせよ特筆すべきはその伝える方法だろう。関のこれまでの作品を見渡して「運び屋」「記録係」「乗り物」などに代表されるトリックスター的な存在(というよりも誘導のための特別なルール)が特徴的だ。それは一つの人格を持つように物と言葉に介在して一人歩きし、作者自身もわからない地平に誘導する。料理をするごとく文脈を切り刻み、句読点を抜き出し、配置の様々な方法を実行する。そして迷子になった私たちは、手探りで新たな道順を見つけようとするのだ。この特別な時間を共有する<Site>の作り方。関真奈美の彫刻の方法論をご堪能あれ。

*1 ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』(平井正徳 訳)
岩波書店、1980年、第3篇 第5章 255p ~257p

武蔵野美術大学彫刻学科教授 伊藤誠



《記録係 vol.羽島市勤労青少年ホームを記憶し記録する1日》
パフォーマンス
2019年
撮影：五十川泰規



《pause と pose》
3D プリント出力物・転写プリント布・モニター・積み木・ぬいぐるみ
w130×d110×h120cm
2018 年
撮影：須田行紀



《PJB》
演劇 70 分
2017 年
撮影：松尾宇人